

熱帯果樹混植林の造成技術の開発研究については、前項に述べたとおりである。

おわりに

以上、本研究組合が現在取り組んでいる研究活動のあらましについて紹介したが、それぞれの研究項目の達成には今後多くの時間と努力が必要であろう。

熱帯林再生に向け種々の取り組みが進められているが、その道はなお遠く、険しい。サステナブル・フォレストリー実現に、我々の努力が一石となれば幸いである。

【参考文献】 1) 小川 真：熱帯林業（新）22：29～38，1991 2) 森 正次：熱帯林業（新）23：13～24，1992 3) 小林紀之：林野時報，vol. 39（10）：14～21，1993

新刊紹介

◎東南アジア林産物 20 の謎 渡辺弘之著 築地書館，東京 四六版 113 pp. 1,854 円，1993 年 3 月発行

「東南アジアの森林と暮らし」の著者である渡辺弘之氏の新刊著者である。

中身は 2 部に別れており，第 1 部は「熱帯林と私」の題名の如く，土壤動物学者の著者が，次第に熱帯林の再生の仕事に足を踏み入れ，また熱帯林の豊富な産物で暮らしを支えている人達の生活を調査するようになり，森林と暮らしや森の恵みに取り組むようになった道筋が描かれている。

第 2 部はこの著書の大部分をしめるが，「森のめぐみ 20 話」と題し，造船材から高級家具材へと転換してきた，チークにまつわる多くの話題に触れるところから始まり，仏壇・位牌はスラウェシからと，来世までお世話になるコクタンに終わるまで，多種多様な東南アジアの林産物と人々の暮らしとの関わりや，日本との関わりを折り込んだ 20 の項目について，多面的な話題を取りあげて解説をしている。経験と話題の豊富な著者の面目まさに躍如たるものがあり，極めて濃い中身で改めて勉強させられることが多いにもかかわらず，平易で大変読み易く書かれており読み始めたら止められない。

しかも，生まれてから死ぬまで，私たちの生活は東南アジアの森林にお世話になっている，このことを肝に銘じていただこう，との著者の思いいれのように，東南アジアの樹木や林産物が色々な形で私達の生活と結び付いていることを教えてくれるだけに，熱帯林に興味をお持ちの方々に読んで頂きたい好著であり，そして熱帯を旅行する場合には，携行していききたい本である。（加藤亮助）